

甲府中央商店街／山梨県甲府市

1. 取り組みの概要

甲府市では、甲府商工会議所が事業実施者となり、空店舗オーナーと賃貸契約を締結し、専門的な事業ノウハウを有していることが条件に、事業の運営を専門的な団体等に委託する「空店舗対策事業」を実施している。本事業は、ただ単に空き店舗を埋めるだけではなく、各団体がもつ専門的なノウハウや資源を活かして、商店街の活性化を図ることを目的としている。

主な実績としては、コリドー通り商店街の「桜座」、かすがモールの「まちなかヴァンフォーレプラザ」、銀座通りの「銀座街の駅」、「四菱まちづくり総合研究室」が挙げられる。

2. 商店街概要

商店街名	甲府中央商店街（山梨県甲府市中央にある商店街の総称）
所在地	J R 甲府駅南口から徒歩約 10 分
会員数	314 商店
URL	http://www.kofu-town.com/special/32/

【甲府中央商店街 位置図】



3. 取り組みに至る経緯・背景

(1) 旧中心市街地活性化基本計画の策定

甲府市の中心市街地には、かつて岡島百貨店、西武百貨店、ダイエー（のちにトポス）といった核店舗があったため、その中央に立地する甲府中央商店街（以下、中央商店街）は連日来街者で賑わっていた。

しかし、バブル経済崩壊や郊外型大型商業施設の開業等の影響で、大型店の経営が急速に悪化し、平成10年には西武百貨店が、翌平成11年にはトポスが相次いで閉店した。甲府駅からの動線として機能していた2店舗の閉店は、中央商店街にとって大きな痛手となり、徐々に空き店舗が増加していった。

甲府市においては、平成11年度に旧中心市街地活性化法に基づく「甲府市中心市街地活性化基本計画」を策定し、平成13年5月には甲府商工会議所がTMOに認定された。これをきっかけに、官民一体となった中央商店街の再生への取り組みが始まった。

(2) 「山梨県ふれあいコミュニティ創出支援事業」の実施

平成14年度から16年度にかけて、甲府商工会議所は国の補助事業である「中小商業活性化総合補助事業」を活用して「山梨県ふれあいコミュニティ創出支援事業」を実施している。

この事業は郊外の大型商業店舗との差別化を図っていくために、文化・交流を切り口にした空き店舗対策を行っていくことが1つの方向性と考え、商店街が従来有していた文化発信やコミュニティ交流機能を時代にマッチした形で再生し、商店街活性化の起爆剤とすることを目的として実施され、「まちなかヴァンフォーレプラザ」、「まちなかイベントホール」、「まちなかものづくり工房」などが設置された。現在、甲府商工会議所が中心市街地活性化事業の一環として実施している「空き店舗対策事業」の礎と言える事業である。

(3) 「空店舗対策事業」の実施

甲府市では中心市街地活性化基本計画に基づく商業関係ソフト事業の一環として、平成17年から甲府商工会議所が事業実施者となって「空店舗対策事業」を実施している。「空店舗対策事業」は、①専門的なノウハウもった団体等と協働して行う事業と②甲府中心商店街で商売を行いたい創業者等への個別支援事業の2種類がある。①についてもう少し詳しく説明すると、甲府商工会議所が空店舗オーナーと賃貸契約を締結し、専門的なノウハウもった団体等に事業運営を委託して行う事業で、ただ単に空店舗を埋めるというだけではなく、各団体等の専門的なノウハウや資源を生かして商店街の活性化を図ることを目的としている。

【事業イメージ】



4. 取り組み内容

以下に「空店舗対策事業」として、甲府商工会議所が専門的なノウハウもった団体等と協働して実施している3つの事業事例を紹介する。

(1) 「桜座」を拠点とした芸術文化の発信

明治・大正時代、甲府市の中心市街地には「桜座」という芝居小屋があり、歌舞伎や芝居・演説会などが行われ、庶民の娯楽施設として親しまれたと言う歴史があった。しかし、活動写真に始まった映画の時代には勝てず、昭和5(1930)年11月、桜座は百貨市場となり姿を消した。

平成17年、特定非営利活動法人 街づくり文化フォーラムのT氏、甲府商工会議所の職員らが中心となって「復活桜座プロジェクト委員会」が立ち上がり、芸術と食を一緒に楽しめる空間として、桜座の復活を目指すこととなった。そして同年6月にはコリドー通り商店街の空き店舗を利用した実験事業として、ギャラリー的施設、舞台イベント的施設、飲食コーナー等といった複数の機能を備えた小劇場が設置され、事業運営は特定非営利活動法人 街づくり文化フォーラムに委託された。

【桜座の外観】



【イベントの様子】



(2) 「まちなかヴァンフォーレプラザ」を拠点とした地域スポーツ文化の発信

平成14年当時、J2（プロサッカーの2部リーグ）に所属していたヴァンフォーレ甲府は、市民に情報を提供する機会が極めて少なかった。そこで甲府商工会議所は、「山梨県ふれあいコミュニティ創出支援事業」の一環として、かすがモールの空き店舗を借り上げ、いつでもヴァンフォーレサポーターやその他スポーツファンが自由に集い、交流できる商店街無料休憩所として当プラザを設置した。主な事業はヴァンフォーレ甲府関連情報の発信やチケット・グッズ販売、選手との交流イベント等で、現在もこれらの事業は継続して実施されている。

平成14年から平成16年度までは、甲府商工会議所が主体となって運営していたが、平成17年度以降は、株式会社ヴァンフォーレスポーツクラブが商工会議所から事業委託を受ける形で自主運営している。

(3) 「銀座街の駅」を拠点とした世代間交流の促進

本施設は、甲府商工会議所が主体となり甲府市の中心街地活性化事業として平成17年の6月にオープンした三世代交流型施設で、「協同組合 山梨安心サービス」という介護支援団体が商工会議所から委託を請ける形で事業運営している。

1階の高齢者交流施設「安心ギャラリー」には、高齢者のお休み処として、テーブル、畳の間、テレビ、障害者トイレなどが設備されており、また常駐の相談員による介護相談や、さらにパンフレットなど様々な介護情報を発信し、毎月高齢者向けのイベントも実施している。

2階の子育て支援施設「ハッピーキッズ」は保育士が常駐しており、一時預かりだけでなく、育児相談、授乳コーナー、ベビーカーといった育児サービスを提供している。

【銀座街の駅の外観】



【まちなかヴァンフォーレプラザの外観】



5. 取り組みによる成果

(1) 外部団体との連携

空き店舗対策事業を通じて、特定非営利活動法人街づくり文化フォーラム（芸術・文化事業）、株式会社ヴァンフォーレスポーツクラブ（スポーツ事業）、協同組合山梨安心サービス（介護支援事業）といった、各分野における専門的なノウハウを活用することで、「ふれあい」、「おもてなし」、「交流」など商店街が従来か有する「街の顔」としての機能が再生しつつある。

(2) 文化の顔「櫻座」の復活

平成17年6月の復活以降、櫻座ではジャズやフラメンコから落語、かつてのキャバレーを再現した舞台まで多彩な公演を年100回ほど繰り広げている。客層も徐々に広がっており、市外からはもちろんのこと、静岡や長野などの県外客が3割ほどを占めるようになった。

また、平成18年からは毎年、櫻座があるコリドー通りを中心とした「甲府ジャズストリート」というイベントを実施している。このイベントは一晩に限って櫻座を含む5つの会場を使って、有名ジャズプレイヤー達による生演奏を催すもので、県内外から多くの客が訪れて中心街の活性化にも結びついている。

6. 取り組みにおける課題

(1) 補助金からの自立

全ての事例に共通する課題が補助金から自立である。いずれの取り組みも収益事業として成立しているとは言いがたく、事業運営者の自己資金や商工会議所からの家賃補助に依存しているのが実状である。

「空店舗対策事業」は年度単位で予算が組まれるので、商工会議所が今後も継続的に家賃を補助できるとは限らない。商工会議所からの支援が続いている間に、自立運営の確立が望まれる。

(2) 再開発事業との連携

現在、甲府駅周辺では、甲府市による甲府市中心市街地活性化基本計画（平成 20 年策定）の主要事業である「甲府紅梅地区第一種市街地再開発事業」が進められている。既に都市型居住と商業、教育施設の誘致が決定されており、平成 22 年 10 月 22 日には商業施設のオープンが控えている。今後は、この施設を利用する客層をいかに商店街に導くかが今後の大きな課題である。

7. 連携した団体、キーパーソンについて

(1) 特定非営利活動法人 街づくり文化フォーラム 理事長 丹沢良治氏

T氏はアクセサリ類の製造・販売事業を全国で展開している株式会社タンザワの代表であると同時に、「特定非営利活動法人 街づくり文化フォーラム」の理事長や、「アートフェスタ 貢川」の実行委員長も兼務し、芸術・文化事業にも積極的に取り組んでいる。

同氏は甲府を『歩いて楽しい街』にすることを目的に平成 13 年に「特定非営利活動法人 街づくり文化フォーラム」を設立し、平成 17 年には、豊富な人脈を活用して著名舞踊家の協力を得て、中心市街地に昔ながらの小劇場「櫻座」を復活させた。